

グルジアのヨーロッパ選手権大会において下記のようなルールの確認が行われた。

要点 基本的にルール変更はせず、ルールの再確認を行う。
フリースタイルのボールチョイス・グレコローマンスタイルのパーテレポジションに対する問題点があげられ、0-0の試合に対する対応方法が提起され、禁止行為・反則行為に対する罰則が厳しくなった。

1. フリースタイル・グレコローマンについて

以下の行為はコーションの対象とする。

- ・指をつかむ行為
- ・手首をつかむ行為
- ・胸に頭をつける（頭を下げる）
- ・頭でブロックする。
- ・ツーオンワンで固定し攻撃しない。
- ・押すだけの行為。（シミュレーション）

以上のような、禁止行為・反則行為（ルールブック第9章参照）を行った選手に対し審判は以下の指導を行う。

- | | |
|-----|------------------|
| 1回目 | 発声注意 |
| 2回目 | 試合を止め注意 |
| 3回目 | ○+1が成立（MCの同意が必要） |

- ・場外に故意につきだした場合はノーポイントで出した選手に注意が与えられ再度出したら、○+1の指導が成立する。
- ・場外逃避・技術回避については即 ○+1が成立する。

2. グレコローマンスタイルについて

*基本的に胸と胸をあわせて試合することが基本である。

以下のような行為はシミュレーションと判断されコーションの対象となる。

- ・肘でブロックする。（オープンしない）
- ・片差しで、攻めない行為
- ・リフトとしてセンターから場外に投げノーポイントの場合は○+1となる。

*禁止事項について（ルールブック 第9章 参考）

- ・髪の毛をひっぱる。耳を掴む。性器を掴む。皮膚をつねる。噛む。指を捻る。相手を棄権させる目的で痛めつける行為。
- ・蹴る・頭突き・首を絞める。故意に押す。相手の生命の危機を誘発する行為。関節等に損傷が起こる行為。相手の足を踏む行為。眉毛から口の間を触る行為。
- ・相手の腹部（みぞおち・胃等）に肘や膝で衝撃を加える行為。身体・腕・脚等を捻る行為。相手のシングレットをつかむ行為。
- ・マットにしがみつく行為。マットをつかむ行為。
- ・相手の靴底をつかむ行為（ヒール部分は許される。）
- ・両レスラーの合意で試合する行為。